

令和2年度 第2回 平塚市博物館協議会会議録

■ 開催日時 令和2年11月19日(木) 10時～11時30分

■ 開催場所 平塚市博物館 講堂

■ 会議出席者(敬称略)

会長 平井 晃

副会長 安室 知

委員 植田 育男、上間 則子、吉川 裕子、藤吉 敬子

事務局 栗山館長、杉山館長代理(管理担当長)、浜野館長代理(学芸担当長)

■ 傍聴者 0名

■ 会議の概要

1 開 会 博物館長挨拶

2 議 事

(1) 報告事項等について

- ・ 令和元年度春期特別展について
- ・ 博物館行事の再開状況について

(2) 今後の事業計画等について

(3) その他

- ・ 事務連絡等

3 閉 会

※ 閉会后、秋期特別展の展示解説

■ 議事および質疑

議題(1) 報告事項等について

◆令和元年度春期特別展について事務局浜野学芸担当長が説明資料により説明。

委 員 特別展をきっかけに学芸員のYouTubeチャンネルを見て、いい企画だと感じた。それが特別展とリンクしていて広がりのある展示であると感じた。

委 員 印刷物を理科の専科の職員に見せたら、「ちょうど授業で扱っているところ」と言うことで、授業で活用してもらいとても好評だった。「写真もきれいで、示しやすかった」とのことだった。

委 員 「空は一日として同じ表情を見せることはない」といつも思っていて、雲の名前は全然わからなかったのだが冊子を見て参考になった。雲の違いと特徴が分かりやすく記してあり理解しやすかった。

委 員 アンケートを見ていると平塚市内21人、平塚市外神奈川県内20人と、平塚市の博物館でありながら市外の方も来られていることから、周りの博物館の拠点としての機能が大きいと感じた。今後も頑張ってもらいたい。ホームページも充実してきて、各方面の方も見に来ているのではないかな。

事務局 回答者の住所も多少特徴的な部分が出ているかもしれない。通常の特別展だと平塚市内の割合

の方が、かなり人数が多くなる傾向があるが、今回は市内と市外がほぼ同数で、かなり広域の方が観覧されたことがうかがえる。天文分野の場合はホームページ等で情報を入手して遠方から来館する方が多いことと、天文の展示自体が地域の博物館であまり行われていないことも要因の一つと考えている。ちなみに、昨年度秋に開催した宮沢賢治の特別展の場合は、もっと市外の方が多数回答していたが、あの時もインターネットを通して情報が拡散していた。わりとブレイクする特別展は市外の入館者が多くなる傾向があるのかもしれない。

委員 SNSなども使っているのか。

事務局 博物館としてはホームページのみでSNSは利用していないが、一般の方のSNSを通して情報が拡散していることがある。

委員 若い人は圧倒的にTwitterとかを利用していますからね。

委員 8名の方の感想を見ると、展示が理解しやすかった、学びにつながったという好意的な感想が続いているので、一般の方に向けていねいに展示がされていたことがわかる。一方で図録を1,000部作ったのに販売部数は79部ということで、920部ほど残った図録について活用の予定はあるか。

事務局 約半数は各博物館・図書館・小中学校などに頒布しており、実際の販売部数は400部程度である。図録が会期中に売り切れることは非常に稀で、今後も活用できる内容と考えているので、数年間かけて少しずつ利用されれば良いと考えている。

委員 900部近く残っているわけではなく、半分くらいはもう活用されているということがわかった。

委員 私も展示のかなり後になってから必要になって求めた図録がある。だから興味関心があり勉強したい方が後から購入する例が結構出てくるのではないかと。図録によっては早く売り切れてしまっていて、再販してほしいものもある。

◆博物館行事の再開状況について事務局浜野学芸担当長が説明資料により説明。

委員 申し込みの方法について、たとえば考古学入門だと往復はがきまたは電子メール、星を見る会だと往復はがきもしくはHPの応募フォームからというように、電子メールの場合と専用の応募フォームの場合とがある。なぜ両方あるのか。

事務局 これは確かに申し込む方に混乱を招くこともあり、応募フォームと書いてあっても電子メールで申し込む方もいるので、統一したほうが良いと考えている。抽選結果を回答するには応募フォームの方がメリットあるのだが、個々の行事に応募フォームを作るのは慣れないと労力がかかり、すべて統一の応募フォームというわけにはいかないため、電子メールのほうがやりやすいという職員が多く、併用している。

委員 プラネタリウムの申込に使っている電子申請システムは県内で共有しているもので、それを行事ごとに少しずつ改良して使っているということか。

事務局 そうです。

委員 でもリクエストも記入可というので、使えると良いと思うが。

事務局 ゆくゆくは電子申請システムの方に統一していこうと話しているが、すぐには難しい。

- 委員 こういうシステムを使えば自動的に集計されてデータの集積もしやすいのか。
- 事務局 メールの方でもできないことはないが、申請システムは自動的にデータが蓄積される。
- 委員 これが普及すると便利と感じた。
- 委員 私も電子申請して館長の第一回歴史放談が見事外れた。とても人気があるのだと感じた。二回目は当選した。往復はがきで出すより電子申請のほうが便利と体感した。
- 事務局 館長の歴史放談は電子申請システムで募集をしているが、実際に個々の行事のフォームを作って up することはややこしいので、学芸員の一人に任せっきりで。電子メールで申し込みの場合、申込者がメールを送ってもこちらに届いていなかった場合、届いたか否かの確認が申込者に届かない。県の電子申請システムでは、申込者が申請すると、それに返答が来て、改めて申し込むわけなので、やり取りの確認ができる。受け付けの連絡が自動的に返って行き違いが起きないことは電子申請システムのメリットと言える。しかし、電子申請システムの中で当落選の連絡をしていても、連絡が来ないと言う人が数名いるのはなぜかわからない。行事ごとにフォームを作るのに慣れてくれば、すべて移行しても良いと考えている。
- 事務局 これまではプラネタリウム室の前でアンケートに記入してもらっていたが、今はそれを避けて電子申請システムでプラネタリウムのアンケートを受け付けている。そういう機能もある。
- 委員 歴史放談の場合は、往復はがきと電子申請システムと電子メールの割合はどのくらいなのか。
- 事務局 歴史放談の場合、電子メールはないが、前は 64 名の申し込みの中で往復はがきは 12 名ぐらいだった。
- 委員 往復はがきが 12 通もあるのでは、一つに統一するより多様な方法で受け付けた方が良さそう。
- 事務局 デジタルの方が便利ではあるが、アナログな往復はがきという方法もまだまだゼロにはできない状況である。
- 委員 申込制行事の参加者数に関して、定員を絞っていることもあるだろうが、その二、三倍の応募があった。コロナになってかえって例年より増えたとか、新規の方が申し込まれたということはあるのか。
- 事務局 講堂だと定員の 60 名を半分に人数制限して実施したことにより倍率が高くなったと考えている。
- 委員 特に新しく人が増えたわけではないのか。
- 事務局 なくはない。星を見る会は 9 月・10 月の参加者が 100 名近くになることは例年にはなかったが、100 名近い申し込みがあるということは、かなりニーズが高いといえる。コロナになって春夏と実施できていなかったからだと思う。プラネタリウムの投影も同じ傾向がみられ、9 月前半は整理券を受け取りに朝 9 時前から玄関前に並ぶ方がいたが、だんだん落ち着いてきて今は定員を割る日も出てきている。だから久しぶりの開催ということでニーズが高かったと考えている。
- 委員 自粛期間中に待っていた方が押し寄せたということか。私は自然観察施設で仕事をしているが、遠くに旅行に行けないからなのか、ものすごく参加希望者が増えて、近場にこのような施

設があることを初めて知ったという方がかなりあったので、この博物館もそういう傾向があったのかと思ったが、とくにそういうことはなかったのか。

事務局 例年よりも申し込みの人数が減っているということではなく、どちらかといえば増えている。コロナで来館を避ける方もいることを考慮すると、このような行事を求めている人が潜在的に多いと感じている。

委員 プラネタリウムの事前申請にリクエストを受け付けたことに関して、どんなリクエストがあったのか。

事務局 今年の夏に関東上空を飛来した火球に関して、天文の学芸員がテレビに出て説明したこともあったが、火球のメカニズムについて具体的に教えてほしいといったリクエストや、季節の星空に関してわかりやすい説明をお願いしたいなど様々であった。約半数の方が事前にリクエストを寄せていたようだ。

委員 今回感染を防ぐために人数を絞っていたと思うが、人数を絞って逆に良かった点は何かあったのか。

事務局 星を見る会の会場を見ていると、人数が多いと実際に望遠鏡を覗く時間が短くなってしまっていたが、今回の参加者に関しては十分満喫している雰囲気を感じた。また、講堂で話すときに自由参加だと満杯になるが、1 テーブルに2人掛けで30人に絞ると圧迫感がないので話に集中できると感じた。一方で、参加者を絞ると、「2回やってほしい」「動画で配信してほしい」という意見をいただく。しかし、一般向けの行事は土曜日曜に組んでいくので同じ内容を2回組むのはスケジュールに入れにくいし、動画は主催者側が慣れていないと緊張してしまうので、まだ踏み出せていない状況である。

事務局 資料を配布するときにあらかじめ人数を把握しているので無駄なく資料を印刷することができることも挙げられる。

委員 天体観察会をオンライン併用で行っているというが、大学の講義型授業のようなものを学芸員がZoomで行っているのを参加者が視聴するイメージで良いのか。

事務局 基本は担当学芸員がパワーポイントを使って説明している内容を配信するが、そのレクチャーに対して出席した会員と質疑応答をする場面がある。会員の発言をマイクで拾いパソコンを通して自宅で視聴している会員へ配信するとともに、自宅からもZoomを通して質問ができるように、相互でやり取りしている。

委員 会議形式のやりとりをしている。そうすると、たとえば平塚学入門など希望者全員が視聴できなかった講演会もそういう形式で併用しながらできるのではないか。オンラインのZoomで視聴可能にすれば、かなりの人数が同時に聞くことができるのではないか。学校でもZoomを使って子どもたちの質問を受けることもできると思うが、いかがか。Zoomを博物館で契約していないとのことだが、20~30分で切り上げなければいけない無料アカウントではなくて、市役所や教育委員会などを通して正式に契約して配信できる環境を整えてもいいのではないだろうか。大学は必ず契約しているし、博物館や美術館も大掛かりなところは結構導入しているようなので、ぜひ検討してほしい。

事務局 役所のネットワークを使ったオンライン会議が本庁で導入されたが、事前にかなりきちっとした申請が必要で、かつ役所のネットワークにはかなりセキュリティがかけられているので、学芸の専門的な研究内容を役所のネットワークで配信するのは現実的には厳しい。だから博物館のネットワークを通して配信できるようにズームアカウントを取得するための予算化が必要と考えている。

委員 視聴者への ID コードの連絡などの手間が増えるが、参加者とメールが連絡できれば難なくできるので、さほど大変ではないのではないかと。こうした環境を整えれば、より多くの人に講演会に参加してもらえる可能性がある。

事務局 学校は、今年度中に一人一台タブレットを持つように進めているようだが。

委員 その方向で進んでいるのだが、Zoom はセキュリティの関係で、学校でアカウントをとってやり取りすることは禁止されている。職員が研修などでどうしても Zoom 会議が必要な場合は申請して許可を得なければならない。子どもたちが使っていくのはまだ遠い話と考えている。

委員 オンラインは非常に便利ではあるのだろうが、我々アナログ世代では中々そこまでとり着けない。平塚学入門などを申し込む方は、60 代以上が圧倒的に多いのではないかと。その人たちが、パソコンやネットにどれくらい対応できるのだろうか。あと 5 年ぐらい経てばその可能性が出てくるだろう。

委員 私はワーキンググループに二つ参加しているが、天文の方たちは普段からパソコンで天体を調べているので、そのメンバーたちはオンラインができると思う。私が参加しているグループで今の大学の講義のようなことができるのかと言われると首をかしげざるを得ない。オンラインやリモートでの講義や講座はこの博物館ではまだ無理なのではないかと。

また、コロナ禍になってからの利点として東国史跡踏査団は午前の部と午後の部に分かれ、人数が半数になって話を聞きやすくなった。

委員 プラネタリウムの申し込みで整理券を配布していたことに関して、人数が減ってきたというが、整理券をもらわなくても直接行けば入れるということか。

事務局 整理券の配布はまだ続けている。

委員 まだ整理券をもらっておかないと観られないということか。

事務局 それはない。1 時 15 分から観覧券を販売するが、それ以降に来た方でも、定員が空いていれば観覧券を買ってそのまま入ることができる。ただ、整理券に連絡先を書いてもらうことになっているので、整理券も渡して連絡先は書いていただく。2 時から始まるので、空きがあれば 1 時 50 分ぐらいでも入ることができる。

委員 2 回行かなければならないことにハードルを感じる。

事務局 必ず入りたいという方には整理券方式をとらないと難しい。たとえば 5 人で観覧したいときに 5 人全員が来ないと観覧券を販売できない。条例上、観覧料を払った人に観覧券を渡さなければならないということもあるし、65 歳以上と 18 歳以下は無料なので本人に年齢確認をしないと行けない。だから 5 人全員が来ないと観覧券を販売できない。苦肉の策で整理券方式を取っている。

委員 学習投影が定員 36 人となっているが、学校で 2 クラスあったら、違う日に来なくてはならないのか。

事務局 10 時 11 時と投影枠を設けているので、2 クラスだったら同じ日に対応が可能である。同じ学校であれば、学校にも承知してもらって入れ換えている。ただし別の学校であれば、別の日にしてもらっている。クラスが多い学校は 2 日、3 日にわたって来てもらうことになる。

委員 Zoom などでの動画配信について、若い世代からするといい制度かもしれない。早急にとはいかなくても長い目で見て考えていただきたい。自分がこの博物館に通っていた 20 代 30 代の頃、講座に参加すると年上の人ばかりで、気づまりで居心地が悪かった。もし、自宅で観られるとなれば興味がある人はいると思う。でも博物館まで足を運ぶとか、まったく違う年代の中で一人で受けるというハードルが高いと思うので、自宅で学習に参加できると新しい世代の開拓になるのではないかと。クリアしなければならないことは多いと思うが、年数をかけて実現していくべきなのではないだろうか。

事務局 講演会をオンライン配信する企画について、春期特別展の担当者が関連行事として外部講師を呼んだ講演会をオンライン配信できないかという企画を立てた。これについて二つの問題が指摘された。一つは外部講師に承知してもらうことで、これは講師が了解すれば可能と思う。二つ目が学芸員の中でも議論が分かれるのだが、今後博物館の講演会に対してオンライン配信してほしいという要望が高まる可能性がある。それは良いことなのかもしれないが、現段階ではそれに果してきちんと対応できるかという自信がない。設備やスキルの問題もあるし、オンライン配信して問題のない講演内容にできるかどうか、このあたりの問題をクリアできれば今後進めていくべきではないかと考えている。オンライン配信は難しくても、編集を加えたのちに YouTube チャンネルに投稿することは可能かもしれない。

委員 特に平塚学入門はその方式が適していると感じる。知りたい人がいつでも聴けるようであれば理想的なのではないか。

議題（2）令和 2 年度予定について

◆今後の事業計画等について事務局浜野学芸担当長が説明資料により説明。

質疑なし

議題（3）その他

◆閉会后、浜野学芸員のもと秋期特別展の解説を受けることとした。

◆次回の協議会は令和 3 月 25 日に開催することとした。

配 布 資 料

令和2年度 第2回平塚市博物館協議会 次第

令和2年11月19日(木) 午前10時
平塚市博物館講堂

1 開会

2 議事

- (1) 報告事項等について
 - ・ 令和元年度春期特別展について
 - ・ 博物館行事の再開状況について
- (2) 今後の事業計画等について
- (3) その他
 - ・ 事務連絡等

3 閉会

※ 閉会后秋期特別展の展示解説を実施します。

以 上

令和元年度春期特別展「空を見上げよう 光と色の不思議」開催報告

会 期 (変更前会期)
 令和2年3月20日(金)～令和2年5月6日(水)
 (変更後会期)
 令和2年4月1日(水)～令和2年4月8日(水)
 令和2年6月20日(土)～令和2年8月30日(日)

主 旨 空は一日として同じ表情を見せることはない。白い雲が浮かぶ青空、雨が降りそうなどんよりとした曇り空、虹に彩雲、…。日々、違う顔が見られることが空を観察する醍醐味といえる。本展示では、このような千差万別の雲や、虹や彩雲といった大気光学現象を写真で紹介するとともに、その背景となる光の性質や物理的メカニズムを解説した。その結果、空の様々な表情を知ってもらうとともに、最も身近な自然の一つでもある“空”に親しみを持ってもらうことを狙った。

展 示 構 成 空の基本／光の章／雲の章／空気の章／水と氷の章／宙の章

	入館者数			開館 日数	こどもの 割合	平均入館 者数/1日
	大人	子ども	合計			
4月	151	12	163	5	7.4%	33
6月	383	151	534	9	28.3%	59
7月	1302	280	1582	27	17.7%	59
8月	1905	648	2553	26	25.4%	98
期間計	3741	1091	4832	67	22.6%	72

関 連 行 事 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

印 刷 物 春期特別展「空を見上げよう 光と色の不思議」
 A5判 カラー 1,000部 頒布価格 ¥400
 開催期間内頒布部数：79部
 ポスター B3判 カラー 400部
 リーフレット A4判 カラー 2,000部

アンケートの結果

回収枚数 46枚

回答者の住所 平塚市内 21名、平塚市外神奈川県内 20名、神奈川県外関東地方 3名
関東地方以外 0名 海外 0名

回答者性別 男 17名、女 27名、

回答者年齢	～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
	10名	9名	6名	6名	8名	3名	2名

情報の入手先 広報ひらつか 6名、博物館のホームページ 8名、あなたと博物館 2名、SNS 1名、
(複数回答可) 新聞等 1名、ポスター 2名、口コミ 3名、その他 23名

おもしろさ	とてもおもしろい	ややおもしろい	ふつう	ややつまらない	つまらない
	32名 71.1%	8名 17.8%	3名 6.7%	0名 0.0%	2名 4.4%

難しさ	とてもよくわかる	まあわかる	ふつう	ややむずかしい	とてもむずかしい
	18名 39.1%	20名 43.5%	2名 4.3%	5名 10.9%	1名 2.2%

総合評価	とても良い	まあ良い	ふつう	もう少し	良くない
	31名 68.9%	12名 26.7%	2名 4.4%	0名 0.0%	0名 0.0%

ご意見・ご感想（一部抜粋）

- ・ たまたま立ち寄ったのですが、想定以上に面白かったです。やはり系統だった説明がよいのでしようね。これからもがんばってください。(60代・男)
- ・ 身近に見られる現象としてとても面白いです。図録を見て勉強してまた来ます。(50代・女)
- ・ いろんなことがしれてよかった。(20代・女)
- ・ 写真展のようで素敵な一瞬をたくさん見れて良かったです。またたくさんの方が博物館へきていろいろ勉強できる(学べる)ようになりますよう。(20代・女)
- ・ 何気なく見ている「きれいだな」と思った景色にもきちんと意味があると知って勉強になりました。(30代・男)
- ・ 2019/3/8の花粉光環は私も観測しました。キレイでしたよね。最近は大気現象がメジャーになってきてうれしいです。また次回このような展示があれば行きたいと思います。(20代・男)
- ・ 全体的におもしろい展示であった。身近なものをテーマにしてあるので子どもから大人まで取っつきやすいと思う。(20代・男)
- ・ ふだんは感性でしか見ない空ですが、様々な現象によって、美しい景色が見られることがわかり、興味深かったです。難しいけど面白い展示でした。(30代・女)

博物館行事の再開状況について

1. 展示

(1) 秋期特別展「よみがえる少年の日々ー佐草健ボールペン画展ー」

会期：10月3日～11月29日

会期中の入館者数（10月分）：2642人（1日平均106人）

図録頒布数（10月分）：88冊

◆関連行事：作品解説「佐草さんの絵に見る90年前の中原」

1回目：10月31日（土） 参加者18名

2回目：11月22日（日）

(2) 寄贈品コーナー

7月	16日	(木)	～	9月	2日	(水)	平塚空襲展【歴史】
9月	11日	(金)	～	9月	29日	(火)	疫病退散（博物館実習生）
10月	3日	(土)	～	11月	3日	(火)	系外惑星25年【天文】
11月	6日	(金)	～	12月	6日	(日)	「新着資料展」【人文分野】

(3) 情報コーナー展示

9月	5日	(土)	～	12月	6日	(日)	ポスト特別展「空を見上げよう」
----	----	-----	---	-----	----	-----	-----------------

2. プラネタリウム

(1) 一般投影

◆8月の投影

8月8日から投影再開

日時：8（土）、9（日）、12（水）、13（木）、15（土）、16（日）、19（水）、20（木）、
22（土）、23（日）、29（土）、30（日）の14時～14時40分

定員：5組（1組5人まで） 先着順

申込：博物館ホームページアドレスより申込

内容：当日の星空や最新天文学の話題を主に、参加者のリクエストにも応じて解説。

その他：受付時に検温

◆9～10月の投影

日 時：土日曜日の14時～14時40分

定 員：18名（当日9時より整理券を配布し、13時15分以降に発券）

内 容：その日の星空を中心としたフリートーク

その他：入場前に連絡先の記入と検温を行う

◆11月の投影

変更点：定員を32名に増やし、投影時間を従来の50分へ戻した。

(2) 特別投影「星空散歩」「星空音楽館」：中止

(3) 幼児投影：中止

(4) 学習投影：11月から再開

日 時：11月以降水曜日の10時～と11時～

定 員：36名

3. 普及行事

7月1日～10月31日までの実績

(1) 自由参加制行事

中止または事前申込制に変更

(2) 申込制行事

感染症対策

事前に参加者の連絡先を把握し、注意事項を伝達。

会場を定員の半数以下に制限。検温の実施。

分野	行事名	実施日	場所	参加者数
天文	星を見る会	8月20日（木）	屋上	26名
天文	星を見る会	9月18日（金）	屋上	26名
天文	最新天文学講座	9月20日（日）	講堂	27名
総合	平塚学入門	9月27日（日）	講堂	27名
総合	平塚学入門	10月4日（日）	講堂	28名
総合	平塚学入門	10月11日（日）	講堂	26名
生物	キノコの観察会	10月15日（木）	野外	15名
生物	自然教室	10月17日（土）	野外	14名
考古	考古学入門講座	10月17日（土）	講堂	20名
考古	博物館長の歴史放談	10月24日（土）	講堂	28名
天文	天文学入門講座	10月24日（土）	講堂	26名

(3) 会員制行事（ワーキンググループ）

感染症対策

会場を定員の半数以下に制限。野外行事は20名以下に限定。

健康チェックシートの提出

分野	行事名	再開日	活動日	その他の感染対策
総合	展示解説ボランティアの会	7/2	第1木曜日	月2回⇒1回に減 展示解説休止
民俗	石仏を調べる会	7/9	第2第4木曜日	
天文	天体観察会 天文学分科会	7/18	月1回土曜日	オンライン併用
天文	天体観察会 流星分科会	7/25	月1回土曜日	オンライン併用
天文	天体観察会 太陽分科会	7/28	月1回火曜日	オンライン併用
考古	東国史跡踏査団	8/8	月1回土曜日	同内容を2回実施
考古	古代生活実験室	8/13	第2木曜日	
歴史	平塚の空襲と戦災を記録する会	8/15	月1回土曜日	
考古	平塚の古代を学ぶ会	8/16	月1回日曜日	
地質	地球科学野外ゼミ	8/23	月1回日曜日	同内容を2回実施
天文	天体観察会	8/23	月1回日曜日	オンライン併用
歴史	裏打ちの会	9/3	第3水曜日	
歴史	古文書講読会	9/11	毎週金曜日	2班に分けて実施
歴史	地域史研究ゼミ	9/26	月1回土曜日	
生物	生き物ズームプロジェクト	9/27	月1回日曜日	
民俗	聞き書きの会	10/13	第2火曜日	
民俗	祭りばやし研究会	10/17	月1回土曜日	笛の演奏自粛
民俗	民俗探訪会	10/21	第3水曜日	

(4) その他の全館的事業

◆博物館実習 9月2日～9月10日の7日間 参加者13名

今後の事業計画等について

1. 展示

(1) 特別展

春期特別展「火球と隕石」 3月20日(土)～5月30日(日)

(2) 寄贈品コーナー

11月 6日 (金)	～	12月 6日 (日)	「新着資料展」【人文分野】
12月 10日 (木)	～	1月 17日 (日)	村絵図展【歴史】
1月 21日 (木)	～	2月 23日 (火)	酒匂川 VS 相模川 - プレート境界に生まれた河川 - 【地質】
2月 26日 (金)	～	3月 28日 (日)	鎌倉武士の足跡を辿る【考古】
(3) 情報コーナー			
9月 5日 (土)	～	12月 6日 (日)	ポスト特別展 「空を見上げよう」
12月 12日 (土)	～	2月 28日 (日)	ポスト特別展 「よみがえる少年の日々」
3月 6日 (土)	～		天体観察会の天体写真展

2. プラネタリウム一般投影

12月5日～1月31日 2021年の天文現象

2月6日～3月14日 太陽系探査の最前線

3月20日～ (仮称) 火球と隕石

3. 普及行事

(1) 申込制行事

【考古】 考古学入門講座	11月28日(日)	12月12日(土)	
博物館長の歴史放談	11月21日(土)	12月19日(土)	1月30日(土)
	2月27日(土)	3月27日(土)	
【歴史】 郷土史入門講座	1月24日(日)	2月21日(日)	3月21日(日)
【民俗】 体験学習「お飾りをつくろう」		12月20日(日)	
【地質】 相模川流域ジオツアー入門		11月29日(日)	
【生物】 自然教室	11月28日(土)	3月6日(土)	
【天文】 星を見る会	11月27日(金)	1月15日(金)	3月26日(金)
天文学入門講座	11月21日(土)	1月16日(土)	3月13日(土)
最新天文学講座	11月29日(日)	1月10日(日)	

(2) 会員制行事 現状を継続